



坂東地域アグリ通信

令和8年7月31日
坂東地域農業改良普及センター 発行
Tel : 0297-34-2134 Fax : 0297-34-3291

茨城県女性農業士会坂東支部が就農啓発活動を行いました

6月15日(月)、坂東清風高等学校教室および農場において、女性農業士会坂東支部が同校の協力のもと、農と食科1年生を対象に就農啓発活動を行いました。本活動は、生徒が農業への理解を深め、進路選択の一助となること、および花に関する知識・関心を高めることを目的に、花き経営の女性農業士を講師として、今年度初めて開催したものです。

当日は、生徒15名、女性農業士8名が参加し、教室で女性農業士全員が自身の農業経営について説明を行い、その後農場に移動して寄せ植え作りを行いました。

女性農業士は生徒に対し、苗の土のほぐし方や、花苗の配置等のアドバイスを行い、生徒全員が思い思いの寄せ植えを完成できるように支援しました。

アンケートでは、多くの生徒が「今回の内容は進路選択の参考になった」、「農業への関心が高まった」との回答や、「楽しかった」という感想も多く聞かれ、生徒らが農業への関心を高め、理解を深める有意義な活動となりました。

普及センターでは、今後も関係機関と連携し、農業後継者の育成と地域農業の振興に努めてまいります。



農業経営についての説明の様子



寄せ植え完成後の集合写真

こめむすび会現地研修会を開催しました

6月17日(水)に(有)アグリ山崎の作業場および圃場にて、水稻中期管理の講習会および有機栽培米の現地研修会を実施し、こめむすび会の会員10名が参加しました。こめむすび会は、令和6年度に設立された新しい組織で、地域の生産者が交流を深め、協力して未来の地域農業の維持・発展を目指して活動しています。

まず初めに、講習会では、中干しのポイントや終了のタイミング、中干し後の間断かん水の管理方法について説明しました。

次に、特に近年問題となっている病害虫や高温への対策として、イネカメムシの適期防除や暑さに負けない米づくりに向けた追肥や深耕について説明を行いました。

続いて、有機栽培圃場に移動し、アイガモロボ2を活用した抑草対策について、昨年度までの実証結果と今年度の取り組み内容について紹介しました。併せて、(有)アグリ山崎の山崎美穂農業経営士から、圃場の有機管理についてお話をいただきました。

最後に参加者からの質疑では、「高温障害対策に一番必要なものは何か」、「除草剤を使っていないのになぜ雑草が少ないのか」といった質問が挙がり、高温対策や有機栽培米について関心が高い様子が伺えました。普及センターでは、品質向上に向けた高温対策と環境に配慮した米づくりの推進に向けて支援していきます。



講習会の様子



有機栽培圃場の様子

令和8年度坂東地域アグリセミナー「開講式・第1回講座」を開催しました

6月23日（火）に、令和8年度第1回坂東地域アグリセミナーを開催し、新規就農者をはじめとした地域の農業者10名が参加しました。今回の講座では境町の青年農業士による講話、普及センターによる講義およびグループワークを行いました。

青年農業士からは、就農当初のなかなか上手くいかない時期から試行錯誤を繰り返し、自分の経営において何が最適なのかを模索する中で、家族との時間を意識したワークライフバランスや刺激しあえる仲間づくりの重要性に気付いた体験談を語っていただきました。併せて、契約出荷への転換や新たな品目導入の機会を活かし、雇用を創出するまで規模拡大させて、農業に誇りを持って取り組まれていることなどについて講話いただきました。

その後、普及センターから「農薬の適正使用について」、農薬ラベルの記載内容に関する講義を行うとともに、自身が抱える悩みや課題について話し合うグループワークを行いました。

グループワークでは、栽培管理、病虫害防除などの農業技術に関することから、雇用主とのコミュニケーション方法に関するところまで、多岐にわたる悩みや課題が挙げられました。また、受講生同士でこれまでの経験を共有し、同様の悩みを抱えた経験のある受講生からアドバイスを行うなど活発な意見交換となりました。研修後のアンケートでは、「先輩農家の話が参考になった」や「様々な視点を持つ必要性を感じた」などの感想が寄せられ、学びの多い講座となりました。

普及センターでは、今後もアグリセミナーを通して新規就農者を支援していきます。



青年農業士による講話の様子



グループワークの様子

斑点米カメムシ類の発生に注意しましょう！

不稔粒対策には出穂期～穂揃期、斑点米対策には乳熟期（出穂後10～15日頃）の防除が重要です。

近年、多く発生しているイネカメムシ（写真1）に、登熟初期に激しく吸汁されると、粳が実らない不稔被害（写真2）が発生し、直接的な減収要因となります。早生品種、晩生品種、または周囲より遅植えで周辺水田と出穂期が異なる圃場は、イネカメムシの集中加害を受けやすくなります。このような圃場では、出穂期の防除を特に意識して実施する必要があります。

また、水稻の出穂期近くに除草すると、雑草地から水田内へのカメムシ類を追い込むことになるため、出穂直前の畦畔等の草刈りは行わず、水稻の出穂2週間前までに終わらせましょう。



病虫害発生予想7月号
茨城県病虫害防除所
令和8年6月26日



不稔米を発生させるイネカメムシの被害にご注意下さい
農林水産省



イネカメムシ
体長 13mm
(写真1)



青立ち
出穂期から乳熟期の集中加害
→不稔になり減収（写真2）

8月・9月 土壌診断実施日のお知らせ

8月は、5日（水）20日（木）の2回の予定です。

9月は、2日（水）16日（水）30日（水）の3回の予定です。

- ・個人の農家の方が対象です。
- ・1回の診断で50点までの分析となります。超えた場合には次の診断となります。
- ・受け付けは前日まで可能ですが**先着順**となりますので、お早めにお持ちください。電話等での**予約は行っておりません**。
- ・**1人あたり5点以内**の持ち込みをお願いします。
- ・土は乾燥させてから、持ち込みをお願いします。

編集後記

今年の7月は、国内で東海地方を中心に気温が40度以上の「酷暑日」が観測史上初めて5日間続きました。

この猛暑で海水浴に行く人が減っているとニュースで見て、夏の風物詩が猛暑により変化しているのを実感しました。

みなさんも暑い日が続きますので、熱中症に注意してお過ごし下さい。（清水）